

造影剤自動注入装置

仕 様 書

令和 7 年 12 月

国家公務員共済組合連合会

新 別 府 病 院

1. 調達物品

造影剤自動注入装置 Press Duo Elite
株式会社根本杏林堂製

2. 調達物品の使用目的

当院は、三次救急病院として高度の医療を提供することで地域に根付いた医療を推進して今日に至る。

とりわけ、平成26（2014）年から向こう3か年で行われた新病棟建築時に於いては、高度の医療を提供する上で不可欠となる放射線機器を多く更新したが、あれから11年が経過し、放射線機器の概ねの対応年数と言われる6年を大幅に超過し、近年ではその維持に苦慮しているところである。

また、昨年末となる令和6（2024）年12月に厚生局（厚生労働省管轄）が行う適時調査が例年通り行われ、放射線領域にあっては、「医師法に従って機器保守を適格に行うよう」口頭指導があり、造影剤自動注入装置を含む多くの放射線機器に対してスポット点検を実施するに至った。

ところが、点検終了後となる本年3月に造影剤注入装置から液漏れのような症状が確認され、製造メーカーへ点検を依頼したところ、極めて高額な修理費用が見積もられたため、機器更新をすることとした。

機器更新が叶うまでは、製造メーカーのご厚意により代替機が無償貸与され、その間に契約を行う手筈であったが、新年度に突入して直接的に契約を担当する物品出納主任（用度課長）が交代、機器更新のために既に徴された見積書は2メーカーあり、どちらも同じ販売代理店からのもので、しかも同額で見積もられていたため「販売代理店が相違すれば、このようなことは現実ありえない」として、本契約は長期戦の様相を呈する事態となった。

まずは、別代理店を充当する件について、本年7月に当初見積を行った販売代理店へ直接趣き、管理者等を相手に競争の原理を説き、1社に絞らせた。

その上で、2社目をどこにするか思案していたところ、本年10月にX線骨密度測定装置の入札が挙行されることとなり、全く新規の業者が落札した経緯があり、この落札業者にもう一方を担って頂くことで調整を図った。

その後、見積書が実勢価格とかけ離れていることを理由に、販売代理店と粘り強く交渉を行い、概ね実勢価格と見られるところまで到達。

この結果、国家公務員共済組合連合会が定める一般競争入札の下限である税込み取得価格3百万円を下回ることが見込まれたため、見積もり合わせによる随意契約を検討していた矢先、思わぬ事態が発生した。

本年4月より約3年ぶりに当院待望の脳神経外科の常勤医が1名配属となったが、この医師が機種選定に待ったをかけたのである。

現行の造影剤自動注入装置は手動的に造影剤を希釈しなければならないタイプのもので、これは今回更新を検討したものも同様のものではあったが、「自動希釈注入タイプ」を所望したのである。

このことにより、機種選定は振り出しとなり、いたずらに無償貸借期間が延長されることは本意でなかったが、急ぎ再度の機種選定にあたることとなった。

造影剤自動注入装置は希釈造影タイプであっても従来同様に2つの製造メーカーが存在し、いずれもデモンストレーションを行い、現場の評価を待った。

ところが2メーカーと言っても製造元は一つしかなく、1メーカーについては販売元だけが別メーカーというからくりである。

今回、仕様書を策定するにあたり、現場の評価を十分に考慮し、代替機の提供を行った製造メーカーには大変心苦しいが、限定された仕様書となったことについては、この場を借りて心より深謝する次第である。

本件はこのように紆余曲折を経て、何とか入札に漕ぎつけたものであることより、無念を抱く業者があることを十分に念頭に置いて、また、元来は同じ製造元であることも踏まえた上で、競争の原理を大原則として入札に参加されたい。

3. 調達物品の仕様

(性能、機能に関する要件)

今回調達する血管造影用造影剤自動注入装置は、以下の要件を満たすこと。

1 測定項目および解析項目は以下の要件を満たすこと。

- 1-1 注入速度は、0.1～30.0ml/secの間で設定できること。
- 1-2 最大圧力は、8200Kpa（1200PSI）以上であること。
- 1-3 240以上のプロトコルをメモリーできること。
- 1-4 患者ごとの造影剤量などを時系列で表示し、最大50件記録する機能を有すること。
- 1-5 アンギオ装置との連動が可能であること。
- 1-6 1ヘッドのデュアルシリンジタイプであること。
- 1-7 操作室側で使用可能なタッチパネル式専用コンソールが備わっていること。
- 1-8 混合・希釈率を、タッチパネルで任意に設定する機能を有すること。
- 1-9 希釈率が異なる2段階注入が可能であること。
- 1-10 マニュアル注入ノブが備わっていること。

以上